

桑野 隆 教授 略歴・業績

略歴

- 1947 年 徳島県生まれ
- 1970 年 東京外国語大学 外国語学部 ロシア語科卒業
- 1972 年 東京外国語大学 外国語学研究科 スラブ系言語専攻修了
- 1979 年 東京工業大学専任講師
- 1981 年 東京工業大学助教授
- 1988 年 東京大学教養学部助教授
- 1992 年 東京大学教養学部教授
- 1996 年 東京大学大学院総合文化研究科教授
- 2001 年 早稲田大学教育学部教授（名称変更により現在、教育・総合科学学術院教授）

学会および社会における主な活動

日本ロシア文学会および表象文化論学会の理事，編集長など（不定期）

主要業績

〈著書〉

- （単）「ソ連言語理論小史：ボードアン・ド・クルトネからロシア・フォルマリズムへ」（1979 年 5 月 三一書房）
- （単）「民衆文化の記号学：先覚者ボガトウイリョフの仕事」（1981 年 1 月 東海大学出版会）
- （単）「はじめてのロシア語」（1984 年 3 月 白水社）
- （単）「エクスプレス ロシア語」（1986 年 3 月 白水社）
- （単）「バフチン：〈対話〉そして〈解放の笑い〉」（1987 年 1 月 岩波書店）
- （単）「未完のポリフォニー：バフチンとロシア・アヴァンギャルド」（1990 年 8 月 未来社）
- （単）「夢みる権利：ロシア・アヴァンギャルド再考」（1996 年 12 月 東京大学出版会）
- （単）「ボリス・ゴドゥノフ：オペラのイコノロジー 1」（2000 年 9 月 ありな書房）
- （単）「CD エクスプレス ロシア語」（2002 年 8 月 白水社）
- （単）「バフチン：〈対話〉そして〈解放の笑い〉（新版）」（2002 年 11 月 岩波書店）
- （単）「バフチンと全体主義：20 世紀ロシアの文化と権力」（2003 年 6 月 東京大学出版会）
- （単）「危機の時代のポリフォニー：ベンヤミン・バフチン・メイエルホリド」（2009 年 10 月 水声社）

- (単)「バフチン：カーニヴァル・対話・笑い」(2012年11月 平凡社)
- (単)「初級ロシア語20課」(2012年11月 白水社)
- (単)「〈新版〉はじめてのロシア語」(2016年3月 白水社)
- (単)「20世紀ロシア思想史」(2017年2月 岩波書店)
- (共)「講座・20世紀の芸術5：言語の冒険」(1988年11月 岩波書店)
- (共)「博友社ロシア語辞典(改訂新版)」(1995年2月 博友社)
- (共)「ロシア・中欧・バルカンの言語と文化」(2010年6月 成文堂)

〈訳書〉

- (単)「レーニンの言語」(シクロフスキイ他著, 1975年9月 三一書房)
- (単)「マルクス主義と言語哲学：言語学における社会学的方法の基本的諸問題」(ヴォロシノフ, バフチン著, 1976年6月 未来社)
- (単)「民衆演劇の機能と構造：演劇の記号学」(ボガトウイリョフ著, 1982年7月 未来社)
- (単)「ロシア・アヴァンギャルドを読む：ソ連記号論」(イヴァノフ, ロートマン他著, 1984年11月 勁草書房)
- (単)「マルクス主義と言語哲学(改訳版)：言語学における社会学的方法の基本的問題」(バフチン著, 1989年4月 未来社)
- (単)「ロシアからの手紙：ペレストロイカを支える英知」(リハチョフ著, 1989年5月 平凡社)
- (単)「文学と革命」(上)・(下)(トロツキイ著, 1993年6月・7月 岩波書店)
- (単)「ロシア・アヴァンギャルドと20世紀の美的革命」(ミリマノフ著, 2001年6月 未来社)
- (単)「サーカス：起源・発展・展望」(クズネツォフ著, 2006年12月, ありな書房)
- (単)「ドストエフスキーの創作の問題(附：より大胆に可能性を利用せよ)」(バフチン著, 2013年3月 平凡社)
- (共)「現代ソビエト心理言語学：言語活動理論の基礎」(レオンチェフ編, 1980年10月 明治図書)
- (共)「文芸学の形式的方法」(バフチン著, 1986年11月 新時代社)
- (共)「ロシア・アヴァンギャルド6：フォルマリズム(詩的言語論)」(桑野隆, 大石雅彦編, 1988年6月 国書刊行会)
- (共)「ロシア・アヴァンギャルド8：ファクト(事実の文学)」(桑野隆, 松原明編, 1993年1月 国書刊行会)
- (共)「ロシア貴族」(ロートマン著, 1997年3月 筑摩書房)
- (共)「逆遠近法の詩学：芸術・言語論集」(フロレンスキイ著, 1998年9月 水声社)
- (共)「メイエルホリド・ベストセレクション」(メイエルホリド著, 2001年8月 作品社)
- (共)「バフチン言語論入門」(バフチン著, 2002年8月 せりか書房)
- (共)「物理学者ランダウ」(山本義隆, 佐々木力, 桑野隆編, 2004年12月 みすず書房)

- (共)「衣裳のフォークロア」(ボガトウイリョフ著, 2005年9月 せりか書房)
- (共)「ロシア・アヴァンギャルド小百科」(コトヴィチ編, 2008年10月 水声社)
- (共)「ヤコブソン・セクション」(ヤコブソン著, 2015年11月 平凡社)

〈論攷〉

- (単)「ボードアン・ド・クルトネについて」(1975年4月『言語における思想性と技術性』, 朝日出版社)
- (単)「ボガトウイリョフ: 現代記号学の先駆者」(1976年8月『言語』, 大修館書店)
- (単)「露・日・英対照文法」(1979年4月-1980年3月『現代ロシア語』, 現代ロシア語社)
- (単)「フォルマリズムを超えて」(1979年9月『文学』, 岩波書店)
- (単)「文化の記号学」(1979年11月『言語』, 大修館書店)
- (単)「ロシア・アヴァンギャルドと民衆文化: メイエルホリドを中心にして」(1981年11月『思想』, 岩波書店)
- (単)「民衆の想像力の空間: ロシアの民衆版画をめぐって」(1982年3月『伝統と現代』, 伝統と現代社)
- (単)「バフチンを読む: 生成の場の記号学」(1985年1月『思想』, 岩波書店)
- (単)「解放の記号学: バフチンを読む(承前)」(1985年3月『思想』, 岩波書店)
- (単)「生きた〈言葉〉と死せる〈言語〉」(1990年2月『現代思想』, 青土社)
- (単)「〈約束事〉の終焉: ロシア・アヴァンギャルドの両義性」(1991年10月『ルプレザンタシオン』002, 筑摩書房)
- (単)「ロシア回帰とバフチン」(1992年7月『比較文学研究』, 東京大学比較文学会)
- (単)「危機の言語学」／「ロシア・フォルマリズム」(1993年6月『岩波講座・現代思想4・言語論的転回』, 岩波書店)
- (単)「構造主義の成立」(1993年9月『岩波講座・現代思想5・構造論革命』, 岩波書店)
- (単)「革命と芸術: トロツキイの場合」(1993年11月『ルプレザンタシオン』005, 筑摩書房)
- (単)「バフチンと全体主義」(1995年4月『思想』, 岩波書店)
- (単) Бахтин и Хиросуэ как модели диалогического творчества, *The Seventh International Bakhtin Conference*, Moscow State Pedagogical University, 1995.
- (単) Bakhtin in Japan, *The Bakhtin Newsletter*, no. 5, 1996, *Bakhtin Around the World: Special Issue*.
- (単)「〈アヴァンギャルド・パラダイム〉は存在するのか」(1997年4月『現代思想』, 青土社)
- (単)「全体主義と言語学」(1997年10月『ライブラリ 相関社会学』4, 新世社)
- (単)「バフチンの時空は〈思想的事実〉たりうるか」(1997年11月『ミハイル・バフチンの時空』, せりか書房)
- (単)「カジミール・マレーヴィチ」(1998年1月『美術手帖』, 美術出版社)

- (単) 「〈余白の哲学〉のミクロポリティクス」(2000年2月『現代ロシア文化』, 国書刊行会)
- (単) 「ロートマン的テキスト論の射程」(2000年3月『表象のディスクール2・テキスト』, 東京大学出版会)
- (単) 「ロシア・フォルマリズムの〈文学性〉の外部」(2001年4月『シリーズ言語態1: 言語態の問い』, 東京大学出版会)
- (単) 「対話的能動性と創造的社会: バフチンの社会学の今日的意味」(2002年8月『思想』, 岩波書店)
- (単) Восприятие Бахтина в Японии, *Михаил Бахтин: pro et contra. Творчество и наследие М. М. Бахтина в контексте мировой культуры*. Том 2, Санкт-Петербург, 2002.
- (単) 「ロシア未来派における芸術と社会: イタリア未来派と比較して」(2004年3月『ロシアとヨーロッパ: 交差する歴史世界』, 早稲田大学出版部)
- (単) 「ロシア・フォルマリズムとバフチン」(2004年5月『岩波講座: 文学(別巻)・文学理論』, 岩波書店)
- (単) 「〈ともに〉〈さまざまな〉声をだす: 対話的能動性と距離」(2008年3月『質的心理学研究』7, 日本質的心理学会)

〈翻訳論文〉

- (単) ラッスードヴァ「ロシア語動詞の体の選択と伝達志向性」(1971年11月・12月『現代ロシア語』, 現代ロシア語社)
- (単) エイゼンシュテイン「映画形式」(1986年11月『エイゼンシュテイン解説』, フィルムアート社)
- (単) イワーノフ「文化の復活」(1989年8月『ペレストロイカの思想』, 群像社)
- (単) イワーノフ「時間と事物」(1995年9月『タルコフスキーの世界』, キネマ旬報社)
- (単) マフリン「〈顔〉を突きあわせて」(1995年9月『現代思想』, 青土社)
- (単) ギュンター「総合芸術作品としての全体主義国家」／「社会主義リアリズムとユートピア思考」(2003年8月『思想』, 岩波書店)
- (単) コトヴィチ「ロシア・アヴァンギャルド, その歴史と理解」(2006年2月『水声通信』, 水声社)
- (単) ガリツォヴァ「ロシア・アヴァンギャルド文学理論における〈ダダ的コラージュ〉」(2006年5月『水声通信』, 水声社)
- (単) ベドロ・F・カンパ「ロシアのエンブレム・ブック」(2013年11月『エンブレムの宇宙』, ありな書房)
- (共) ヤンポリスキ「レーニン, ソヴィエト政権の樹立を宣言する: 根拠付けのディスクールに関する覚書」(2004年7月・8月『みすず』, みすず書房)